

施策評価調書【令和7年度実施事業】

政策名	7 地域が輝くまちの創生	関係課名	鶴見振興局
施策名	7 海に寄り添い海と生きる、安心快適な鶴見地域～鶴見地域～		
総合計画頁	P110～111		

【1-1 主な取組】

主な取組	ア	イ	ウ	エ
	子どもから高齢者まで、誰もが暮らしやすい新たなコミュニティの創出	海を生業にできるまちづくり	ありのままの鶴見半島を味わう観光	

【1-2 主な取組の実施状況】

主な取組	R7年度に実施した具体的な取組内容と成果	R8年度に実施予定の具体的な取組内容
ア	<p>(ア) コミュニティセンターを拠点とした持続的持続可能な地域活動の支援 ・鶴見地域コミュニティ協議会と協業でR8.3.22(日)に「TSURUMI海の春祭り」を行い、地域内住民を中心に約500名の来場があった。 (イ) 地域コミュニティの活性化を図るため、元気な高齢者団体の活動を支援する ・地区社会福祉協議会、高齢者ボランティアグループ及びAコープ鶴見店と連携し、離島大島、鶴見東部地域を中心に高齢者の見守り、買物支援事業を通年に渡り行った。 (ウ) 小規模校の特色をいかした、地域協働の子育て環境づくりの促進 ・11月に松浦小学校と連携しドイツ在住アーティスト等を講師に「鶴見リベラルアーツ学院」と題し子どもたちの感性を引き出すオンライン授業を行った。 (エ) 主要幹線である県道梶寄浦佐伯線の改良や、番匠川河口橋の建設要望 ・県道梶寄浦佐伯線の吹浦地区での早期完成に向けた県土木事務所と連絡調整を行った。また、番匠川河口橋の早期着工要望を県土木建築部長に対し行った。 (オ) 消防本部東部分署を防災拠点として活用する ・東部分署と共同で衛星通信電話等を使った情報伝達訓練を不定期に行った。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入</p>
イ	<p>(ア) 若手後継者育成のための就漁支援 ・水産事業者の新規事業開拓支援として鶴見吹浦地域の遊休農地でキウイフルーツを栽培する事業の拡大に向けた支援を行った。 (イ) 県下最大の水揚げを誇る鶴見の魚介類のブランディングを確立し、商品価値を高める取組の支援 ・地域の知的財産を活用する取組として、鶴見のおさかな大百科で使用した魚介類のデジタルデータを使った「鶴見のおさかなカプセル」を企画。リアルなおさかなアクリルキーホルダーを製作し、鶴見産魚介類のPRIに努めたほか収益化に向けた取組を行った。 ・鶴見地域のブランディングを高めるため、Instagramにおいて、ジャンル不問、国籍不問の自由なアートコンテスト「鶴見半島心象アワード」を行い、海外からも含め72作品の応募があった。 (ウ) 鶴見の魚介類を利用した「食」や特産品開発等の支援 ・鶴見地域の飲食店とうまいもん通りの飲食店が連携し、鶴見の魚や農産物を使った「食」のフェアを行った。 8/1～8/31「夏イカフェア」8店舗参加 10/1～11/30「マリンレモンフェア」24店舗参加 ・鶴見の地域資源を使った新たな特産品としてカップ麺開発を目指し、フードコーディネーター、アーティスト等と「鶴見スーパーシーフードヌードル開発プロジェクト」を発足。年4回のプロジェクト会議を開催し、鶴見地域の食材の可能性を研究した。 (エ) 遊休農地を活用した漁業者の空き時間で取り組める農作物栽培や新規事業参入及び業態転換に対する取組など漁業者の所得向上を図る取組の支援 ・若手水産事業者経営者の新規事業参入支援として鶴見吹浦地域の遊休農地でキウイフルーツを栽培する事業の拡大に向けた支援を行った。 (オ) 就漁外国人技能実習生への日本語教育などの支援 ・技能実習生の転入及び船員保険事務等の窓口対応において書類作成支援等丁寧な対応を行った。 (カ) 海上漂流ゴミ対策など、豊かな海を守るための取組への支援 令和7年7月21日を基準日として鶴見地域一斉の海岸漂着ごみ清掃を行った。(地区主体)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入</p>
ウ	<p>(ア) 九州最東端の絶景を誇る鶴御崎や丹賀砲台跡等の歴史自然遺産をありのままの魅力を感じてもらうため、サインをユニバーサルデザインのものに統一。また、景観に支障のある雑木の伐採活動を支援する。 ・10月26日、動物との共尊、共存をテーマに鶴御崎自然公園にて「つるみ犬山海空リトリート」を行い犬とその飼い主30名が参加、11月21日、歴史遺産の1つである水の子灯台海事資料館周辺の闇を光と音で纏うイベント「Shimokajiyose Phantom Night」を行い約200名の来場、12月4日、鶴御崎の雄大な夜の自然を体験する星空観測会「Tsurumisaki Starlight Theater」を行い30名の来場等新たな交流人口の増加に努めた。また、通年にわたり鶴御崎自然公園等の景観支障木の伐採、遊歩道整備を行った。 (イ) 佐伯市を代表する海のイベントとして、「つるみ豊魚祭」を継続する。 ・農林水産関連イベントの統合という政策決定に従い令和7年度は「つるみ豊魚祭」は行わないものとした。</p>	<p><input type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input checked="" type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入</p> <p>つるみ豊魚祭については、従来規模での開催は困難であるため、イベント内容を精査し規模を縮小したかたちで地域のためのお祭りとして開催出来るよう検討したい。</p>

【1-3 主な取組（R7年度実施）による評価】

評価		評価理由	平均評価
ア	A	高齢者ボランティアグループ及びAコープ鶴見店と連携し、離島大島、鶴見東部地域を中心に高齢者の見守り、買物支援事業を通年に渡り実施する等、地域課題を地域資源で解決する取組ができた。松浦小学校との連携授業についても今年度で3回目を迎え、地域の子どもが多様な価値観に出会える環境が整った。	A
イ	A	水産事業者の新規事業開拓支援として鶴見吹浦地域の遊休農地でキウイフルーツを栽培する事業の拡大に向けた支援を行ったほか、食のフェアの開催、SNSを活用したアートコンテストの開催、新たな特産品開発に向けた「鶴見スーパーシーフードヌードル開発プロジェクト」の立ち上げ等精力的に「海」とともに生きる地域の特色づくりに努めた。	
ウ	B	鶴御崎自然公園等の支障木の伐採等景観保全に努めたほか、水の子灯台海事資料館周辺で光と音のイベント「Shimokajiyose Phantom Night」はじめ鶴御崎の夜の自然を体験する星空観察イベント「Tsurumisaki Starlight Theater」も今年で4回目を実施する等新たな交流人口の増加に努めた。 豊魚祭の継続実施については、政策決定に従い本年度は開催しなかった。	

【2-1 目標指標】

目標内容		基準値・年度		実績値 【R7年度】	目標値 (令和7年度)	目標値 (令和9年度)
(1)	新規事業参入及び業態転換（副業等含）漁業者（事業者）数	9人（者）	R4	18（者）	12人（者）	15人（者）
(2)	「食」と観光の連携による誘客数	20,352人 ／年	R4	19,460人/年	25,674人/年	31,000人／年

【2-2 目標指標による評価】

評価		評価理由	平均評価
(1)	A	令和7年度の目標値が12人（者）であり、巻き網漁業を中心に18人（者）の新規就労者があったため評価はAとする。	B
(2)	C	令和7年度の目標値は25,674人であるが、丹賀砲台園地のドーム改修工事に伴う休園、つるみ豊魚祭開催の見送り等により19,460人の集客であったため評価はCとする。	

【3-1 重点プロジェクト】 ※各振興局所管の地域活性化分野のみ

重点プロジェクト名	
①	ひとにやさしいまちプロジェクト
②	漁業のまちの未来創生プロジェクト
③	ありのまま鶴見味わいプロジェクト

【3-2 重点プロジェクトの具体的な実施状況評価】 ※各振興局所管の地域活性化分野のみ

	R7年度に実施した具体的な取組内容と成果	R8年度に実施予定の具体的な取組内容
①	地域の人々が持つさまざまな個性や違いを尊重し、地域課題を地域資源で解決しようとする取組として、地域の高齢者や離島大島等の買物弱者を支援する取組が、行政、地区社会福祉協議会、ボランティアグループ、Aコープ鶴見店と協業で継続することができた。また、地域の子どもが多様な価値観に出会える環境を創出するため、松浦小学校との協業でのオンライン授業「鶴見リベラルアーツ学院」を継続することができた。	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入
②	鶴見市場に揚がる魚介類のブランディングを確立する取組として、「食」のフェアの開催や、知的財産を収益化しようとする取組「鶴見のおさかなカプセル」プロジェクトの推進等、鶴見産魚介類のPRに努めたほかSNSを活用したアートコンテストの開催し、鶴見地域のブランディングを高める活動ができた。また、特産品開発として「鶴見スーパーシーフードヌードル開発プロジェクト」を立ち上げ、調査研究を行った。さらに、水産事業者の遊休農地活用によるキウイフルーツ栽培事業参入支援を行ったほか、海の環境保全に向けた取組として令和7年7月21日を基準日として鶴見地域一斉の海岸漂着ごみ清掃を行った。	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入
③	動物との共尊、共存をテーマに鶴御崎自然公園にて「つるみ犬山海空リトリート」を行い犬とその飼い主30名が参加。鶴見半島の歴史遺産の1つである水の子灯台海事資料館周辺の闇を光と音で纏うイベント「Shimokajiyose Phantom Night」を行い約200名が来場。鶴御崎の雄大な夜の自然を体験する星空観測会「Tsurumisaki Starlight Theater」を行い30名の来場等新たな交流人口の増加に努めた。また、通年にわたり鶴御崎自然公園等の景観支障木の伐採、遊歩道整備を行った。	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入

【3-3 重点プロジェクト（R7年度実施）による評価】

評価	評価理由	平均評価
① A	地域課題を地域資源で解決しようとする取組として、地域の高齢者や離島大島等の買物弱者を支援する取組が、行政、地区社会福祉協議会、ボランティアグループ、地元スーパーが連携し概ね順調に運営できている。また、地域の子どもが多様な価値観に出会える環境を創出するため、松浦小学校との協業でオンライン授業「鶴見リベラルアーツ学院」の開催し3ヶ年継続できている。	A
② A	「食」のフェアの継続開催や、知的財産を収益化しようとする取組「鶴見のおさかなカプセル」プロジェクトの推進により鶴見産魚介類のPRに努めた。また、鶴見地域のブランディングを高める取組としてSNSを活用したアートコンテストを開催した。さらに特産品開発として「鶴見スーパーシーフードヌードル開発プロジェクト」の立ち上げができたほか水産事業者の農業参入支援等、漁業関係者の新たな収益確保に向けた取組ができた。	
③ A	鶴見の自然、歴史遺産を活用したイベントを通年に渡り開催することができたほか、通年にわたり鶴御崎自然公園等の景観支障木の伐採、遊歩道整備を行うことができた。	

【4 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	地域課題を地域資源で解決する取組として買物弱者支援などの地域福祉事業や、地域住民参加型イベント「Tsurumi海の春祭り」を今後も継続していく。交流人口促進施策においても、鶴見の食材を使った「食」のフェアの継続開催や知的財産を収益化しようとする取組「鶴見のおさかなカプセル」プロジェクトの推進により鶴見産魚介類のPRに努めていく。また、鶴見地域のブランディングを高める取組としてSNSを活用したアートコンテストや鶴見半島の歴史遺産や戦争遺構を活用したアートイベントを継続して行っていく。さらに特産品開発として「鶴見スーパーシーフードヌードル開発プロジェクト」を推進するほか水産事業者の農業参入支援等、漁業関係者の新たな収益確保に向けた取組を加速していく。